ること。

(2) 人間生活の中の科学

身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ，それらについての観察，実験などを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　光や熱の科学，物質の科学，生命の科学，宇宙や地球の科学と人間生活との関わりについて認識を深めるとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付けること。

(ｱ) 光や熱の科学

㋐　光の性質とその利用

光に関する観察，実験などを行い，光を中心とした電磁波の性質とその利用について，日常生活と関連付けて理解すること。

㋑　熱の性質とその利用

熱に関する観察，実験などを行い，熱の性質，エネルギーの変換と保存及び有効利用について，日常生活と関連付けて理解すること。

(ｲ) 物質の科学

㋐　材料とその再利用

身近な材料に関する観察，実験などを行い，金属やプラスチックの種類，性質及び用途と資源の再利用について，日常生活と関連付けて理解すること。

㋑　衣料と食品

衣料と食品に関する観察，実験などを行い，身近な衣料材料の性質や用途，食品中の主な成分の性質について，日常生活と関連付けて理解すること。

(ｳ) 生命の科学

㋐　ヒトの生命現象

ヒトの生命現象に関する観察，実験などを行い，ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解すること。

㋑　微生物とその利用

微生物に関する観察，実験などを行い，微生物の働きを人間生活と関連付けて理解すること。

(ｴ) 宇宙や地球の科学

㋐　太陽と地球

天体に関する観察，実験などを行い，太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて，人間生活と関連付けて理解すること。

㋑　自然景観と自然災害

自然景観と自然災害に関する観察，実験などを行い，身近な自然景観の成り立ちと自然災害について，人間生活と関連付けて理解すること。

イ　光や熱の科学，物質の科学，生命の科学，宇宙や地球の科学について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，人間生活と関連付けて，科学的に考察し表現すること。

(3) これからの科学と人間生活

自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての学習を踏まえて，課題を設定し探究することで，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めること。

イ　これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現すること。

3　内容の取扱い

(1) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　中学校理科との関連を十分考慮するとともに，科学と人間生活との関わりについて理解させ，観察，実験などを中心に扱い，自然や科学技術に対する興味・関心を高めるようにすること。

イ　この科目で育成を目指す資質・能力を育むため，観察，実験などを行い，探究の過程を踏まえた学習活動を行うようにすること。その際，学習内容の特質に応じて，課題の把握，課題の追究，課題の解決などの探究の方法を習得させるようにすること。

ウ　内容の(1)については，この科目の導入として位置付け，身近な事例を基に科学技術に対する興味・関心を高めるよう展開すること。

エ　内容の(2)のアの(ｱ)から(ｴ)までについては，生徒の実態等を考慮し，それぞれ㋐又は㋑のいずれかを選択して扱うこと。

オ　内容の(3)については，(2)の学習を踏まえ，課題を設定し考察させ，報告書を作成させたり発表を行う機会を設けたりすること。

(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。

ア　内容の(1)については，身近な科学技術の例を取り上げ，その変遷と人間生活の変化との関わりを扱うこと。

イ　内容の(2)のアの(ｱ)の㋐については，光の波としての分類や性質を扱うこと。「電磁波の利用」については，電波やＸ線にも触れること。㋑